

インターネットの向こうの「顔」がみえていますか？

人と人、世界をつなげる便利な道具です

ネットでお買い物したり、お友達と無料通信アプリで会話が気軽にできたり、インターネットがない、生活は考えられないな。

そうね、日常生活で、すごく便利なものだけど、それだけじゃないよ。

2016(平成28)年4月に熊本で大きな地震が起きたとき、家族や友達の無事を確認するのにSNSがとっても役に立ったんだよ。

インターネット上に全国から励ましの言葉などが掲載されていたね。世界中から応援メッセージもあって、会ったこともない人たちだけが、温かい思いを感じるようになったね。

他にも、視覚や聴覚に障がいのある人にとっては、メールや読み上げソフトなどで、意志疎通にも役立てられているよ。思いが通じることによって安心できるよね。



ペット可避難所、簡易おむつの作り方… ネット市民が情報支援



熊本地震
被災者の「知りたい」提供

「2016年4月14日、九州、熊本地震」の地震発生後、フェイスブック上で「熊本地震」のページが立ち上がった。被災地内外のネット利用者が押し寄せ、被災地内外の被災者支援の情報が、時々刻々と増えていく。各地の震度と市町村のホームページ、レスポンスを受け入れる熊本市の動物病院や、レスポンスを利用した簡易おむつの作り方、ペットを作った一般社団法人の被災者事務局長は「被災者だけでなくボランティアに情報を伝えるのも目的。何も知らないまま活動すると逆に迷惑になる。水、食料、心のケア、どこで何が必要か、迅速な把握が復旧・復興の鍵を握る。」

4日の熊本地震を受け、インターネットをフル活用して被災者を支援する動きが広がっている。ペット同伴可の避難場所、外国人支援サイト、東日本大震災を教訓にした新たな情報共有システムなど、被災者たちが「いま知りたい」情報を次々に提供、デジタル発信に集まった善意が全国から届いている。

(池田誠、森澤誠、佐藤史恵)

熊本地震の際にも、インターネットを活用した被災者支援が行われました。

